

4.6 緑

4.6.1 緑の質

(1) 現況調査

ア. 現存植生状況及び生育状況

(ア) 計画地の現存植生状況

計画地の現存植生状況は、表 4.6.1-1 に示すとおりである。

計画地の植生区分は、裸地、建築物等が 100.0%となっていた。

なお、調査時点で存在していた建築物は、令和 8 年 5 月現在では解体され、更地となっている。

表 4.6.1-1 計画地の現存植生状況

区 分	面積 (m ²)	割合 (%)
裸地、建築物等	約 3,740	100.0
合 計	約 3,740	100.0

(イ) 計画地の生育状況

計画地には、植生の生育が見られなかった。

イ. 周辺地域の生育木

計画地周辺における樹木活力度調査結果は、表 4.6.1-2 に示すとおりである。

高木 28 種、中木 20 種、低木 10 種が確認された。平均活力度指数は 1.00～1.69 であり、判定 A を示していた。

表 4.6.1-2(1) 周辺地域の樹木活力度調査結果

分類	樹種名	総数 (本)	日進町 公園 (本)	西口 さくら 緑地 (本)	西口 さんかく 公園 (本)	上並木 公園 (本)	平均 活力度 指数	判定		
高木	常緑	マテバシイ	27	7	0	0	20	1.26	A	
		ヒイラギモクセイ	4	4	0	0	0	1.10	A	
		ゲッケイジュ	1	1	0	0	0	1.00	A	
		クスノキ	8	2	1	4	1	1.69	A	
		ヤマモモ	11	9	2	0	0	1.00	A	
		ヤブツバキ	1	1	0	0	0	1.00	A	
		クロガネモチ	1	0	1	0	0	1.00	A	
		カナメモチ	3	0	0	3	0	1.04	A	
		シラカシ	4	0	0	4	0	1.07	A	
		サンゴジュ	1	0	0	0	1	1.00	A	
		トウネズミモチ	2	0	0	0	2	1.06	A	
	落葉	スダジイ	1	0	0	0	1	1.00	A	
		ヤマモミジ	5	3	0	0	2	1.05	A	
		エゴノキ	4	4	0	0	0	1.47	A	
		オオシマザクラ	1	1	0	0	0	1.00	A	
		チョウセンアサガオ	1	1	0	0	0	1.00	A	
		ヤマボウシ	1	1	0	0	0	1.00	A	
		ケヤキ	8	4	0	0	4	1.02	A	
		ソメイヨシノ	15	0	8	0	7	1.10	A	
		アオギリ	3	0	0	0	3	1.00	A	
		コブシ	2	0	0	0	2	1.00	A	
		ナンキンハゼ	5	0	0	0	5	1.05	A	
		アキニレ	1	0	0	0	1	1.00	A	
		カキノキ	1	0	0	0	1	1.00	A	
		クワ	2	0	0	0	2	1.00	A	
		針葉	メタセコイア	1	0	0	1	0	1.13	A
			イチョウ	2	0	0	0	2	1.00	A
特殊	アツバキミガヨラン	1	1	0	0	0	1.00	A		

表 4. 6. 1-2(2) 周辺地域の樹木活力度調査結果

分類	樹種名	総数 (本)	日進町 公園 (本)	西口 さくら 緑地 (本)	西口 さんかく 公園 (本)	上並木 公園 (本)	平均 活力度 指数	判定		
中木	常緑	広葉	ヤブツバキ	4	4	0	0	0	1.10	A
			オオムラサキツツジ	30	30	0	0	0	1.00	A
			ゲッケイジュ	1	1	0	0	0	1.13	A
			サザンカ	22	22	0	0	0	1.26	A
			トベラ	8	8	0	0	0	1.00	A
			ランタナ	1	1	0	0	0	1.00	A
			シャリンバイ	2	1	0	0	1	1.07	A
			ナツミカン	5	5	0	0	0	1.13	A
			ピラカンサス	1	1	0	0	0	1.13	A
			キンモクセイ	42	0	30	12	0	1.34	A
	落葉	広葉	カナメモチ	2	0	0	2	0	1.63	A
			アベリア	7	0	0	0	7	1.00	A
			サンショウ	1	1	0	0	0	1.00	A
			ヤマモミジ	1	1	0	0	0	1.00	A
			オオシマザクラ	3	3	0	0	0	1.00	A
			ガクアジサイ	3	3	0	0	0	1.00	A
			モモ	1	1	0	0	0	1.00	A
	特殊	広葉	ユキヤナギ	20	0	0	20	0	1.00	A
			バショウ	1	1	0	0	0	1.00	A
	低木	常緑	広葉	ユッカSP ^{注)}	1	1	0	0	0	1.00
サツキ				30	30	0	0	0	1.00	A
シャリンバイ				16	16	0	0	0	1.00	A
ランタナ				3	3	0	0	0	1.00	A
ハマヒサカキ				10	10	0	0	0	1.00	A
オオムラサキツツジ				210	10	200	0	0	1.00	A
落葉		広葉	コクチナシ	30	0	0	0	30	1.25	A
			ユスラウメ	1	1	0	0	0	1.00	A
			アジサイ	12	2	0	10	0	1.00	A
			ユキヤナギ	3	3	0	0	0	1.00	A
			アキニレ	2	0	0	0	2	1.00	A

注)SP: 現地確認において属レベルでの同定は可能であったが、種の特特定までは行っていない樹種を指す。

ウ. 植栽土壌

(ア) 基本断面調査

植栽土壌調査地点は、図 4. 6. 1-1 に示すとおりである。

地点 a の土壌状態は、人為的影響を強く受けた造成土であり、有機物の堆積により生成された秩序性のある自然的な層位は認められなかった。また、全層にわたり固結しており緻密な壁状であり、若干還元状態であった。

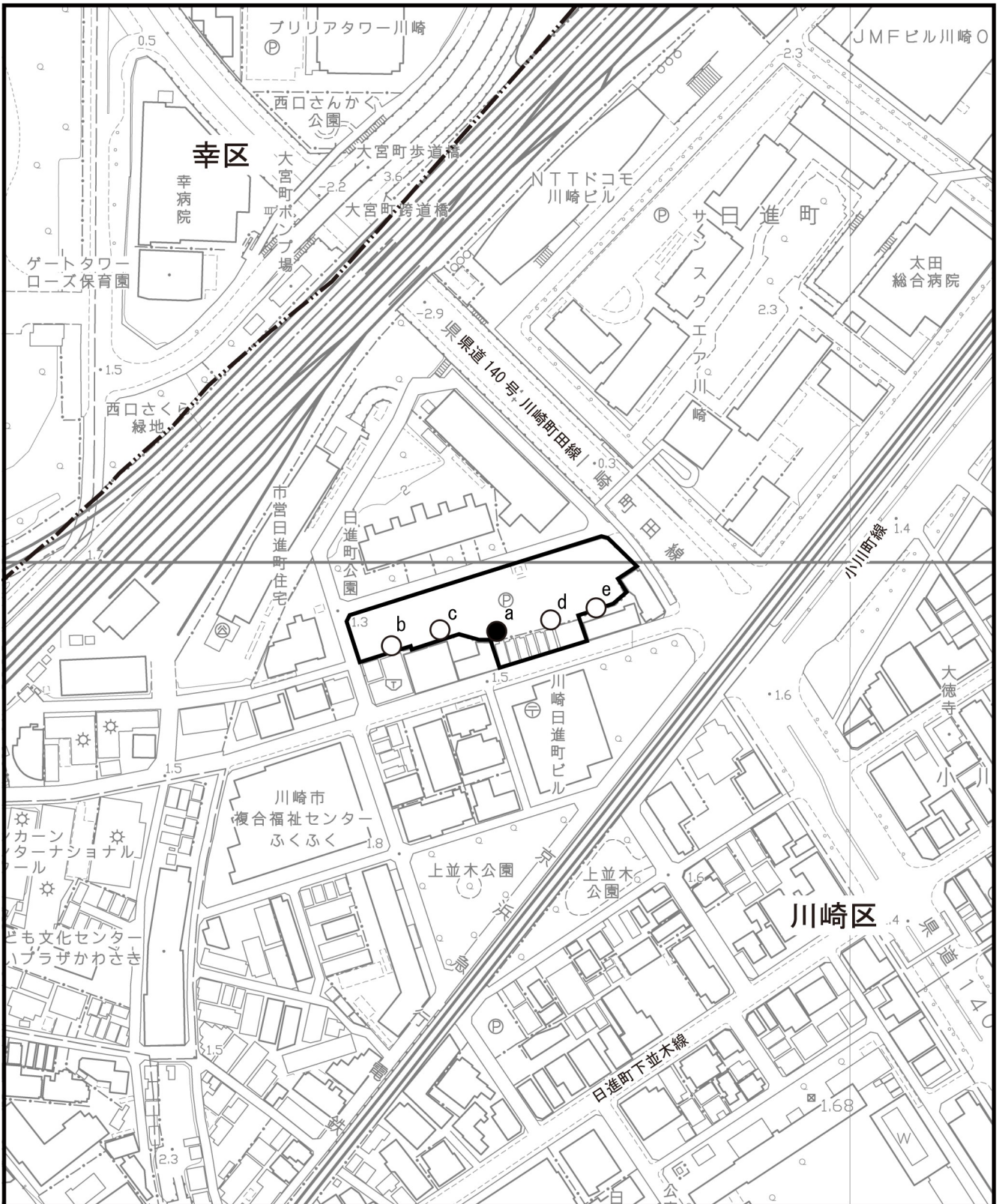
地表の碎石層以下の土壌の物理性については、砂質埴壤土 (SCL) であるが、飽和透水係数が低く、有効水分保持量が少なかった。一方、土壌の化学性については、全窒素や有効態リン酸といった土壌養分が不足していた。また、コンクリート夾雑物を由来と考えられるアルカリ土壌が確認された。

以上の結果から、計画地内の土壌は植栽土壌としては良好ではないと考えられる。

(イ) 簡易断面調査

計画地の土壌は、暗オリーブ褐色の腐植に乏しい劣悪土が広く分布している。

これらの土壌には、①固結、②水分の過多、③やや強い可塑性 (透水・通気性不良) ④還元状態、⑤腐植不足などの植物生育上の阻害要因が存在している。



凡例

- 計画地
- 簡易断面調査地点
- 区界
- 基本断面調査地点



Scale 1:2,500

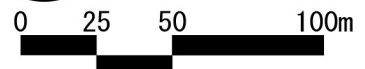


図 4.6.1-1 植栽土壌調査地点

エ. 植栽予定樹種

本事業の緑化計画における新規植栽予定樹種は、表 4.6.1-3 に示すとおりである。

表 4.6.1-3 新規植栽予定樹種

区分	植栽予定樹種	植栽予定本数	樹高	目通周	葉張り
大景木 常緑樹	タブノキ等	15 本	約 10m	約 1m	約 3m

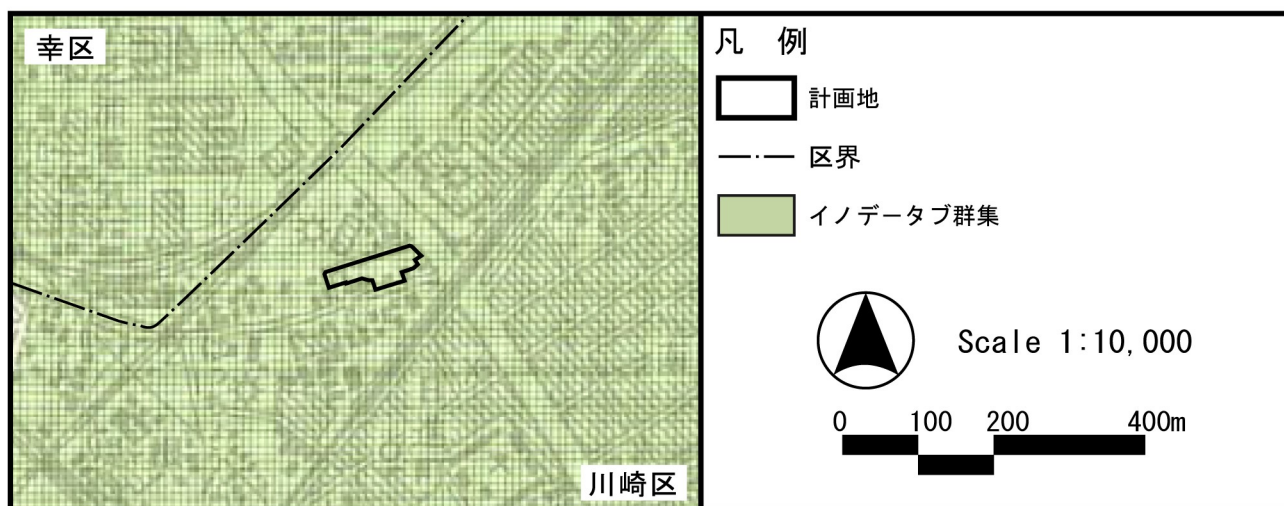
資料：「川崎市緑化指針」（令和 4 年 2 月一部改正 川崎市）

オ. 潜在自然植生

既存資料「神奈川県内の潜在自然植生」（昭和 51 年 宮脇昭ほか）及び「川崎市および周辺の植生」（昭和 56 年 宮脇昭ほか）によると、計画地及びその周辺の潜在自然植生は「イノデータブ群集」に属している。

潜在自然植生の状況は、図 4.6.1-2 に示すとおりであり、「イノデータブ群集」における主な生育種は、表 4.6.1-4 に示すとおりである。

なお、計画地及びその周辺における土地利用は、昭和 50 年代当時から現在に至るまで、工場等の土地利用から住宅地等へと変化しているが、これらはいずれも人工的土地利用であり、潜在自然植生の成立条件を左右するものではないことから、潜在自然植生についても変化はないものと考えられる。



資料：「川崎市および周辺の植生」（昭和 56 年 宮脇昭ほか）

図 4.6.1-2 潜在自然植生

表 4.6.1-4 イノデータブ群集における主な生育種

区分	主な生育種
	イノデータブ群集
高木層	タブノキ、シロダモ、ヤブニッケイ
低木層	アオキ、ヤツデ
草本層	イノデ、ヤブラン、キチジョウソウ、オオバジャノヒゲ

資料：「神奈川県の潜在自然植生」（昭和 51 年 宮脇昭ほか）

カ. 生育環境

(ア) 地形・地質等の状況

計画地の北東側を多摩川水系の多摩川が北東から東へ、西側を鶴見川水系の鶴見川が北東から南西へ流れている。計画地付近の多摩川及び鶴見川は一級河川の区間である。計画地は、標高 (T.P.) +1.5m 程度の平坦な地形である。また、計画地北側、東側、西側には商業施設及び集合住宅等が広がっている。南側には文教・厚生用地も混在している。

(イ) 日照、潮風等の状況

計画地に近接して集合住宅及び商業ビル等が存在し、日照及び風に影響を及ぼす可能性がある。

計画地は東京湾から約 10km 程度離れており、周辺地域の生育木の現地調査において、潮風の影響を受けている生育木は見られない。

(ウ) 地域社会とのつながり

計画地の現状は、駐車場等となっていることから、計画地周辺の地域社会とのつながりはない。

(2) 予測、環境保全のための措置及び評価

ア. 予測

(ア) 主要な植栽予定樹種の環境適合性

本事業の緑化計画における主要な植栽予定樹種の環境適合性予測結果は、表 4.6.1-5 に示すとおりである。主要な植栽予定樹種であるタブノキは、耐風性及び耐陰性の樹種であり、計画地の潜在自然植生の構成種に該当する。

また、図 4.6.1-3 に示すとおり、本事業の緑化範囲は、計画建築物等による日影や強風の影響を受けると想定される。主要な植栽予定樹種であるタブノキは耐風性及び耐陰性を持つこと、また、適切に管理を行うことにより、計画地の環境特性に適合するものと予測する。

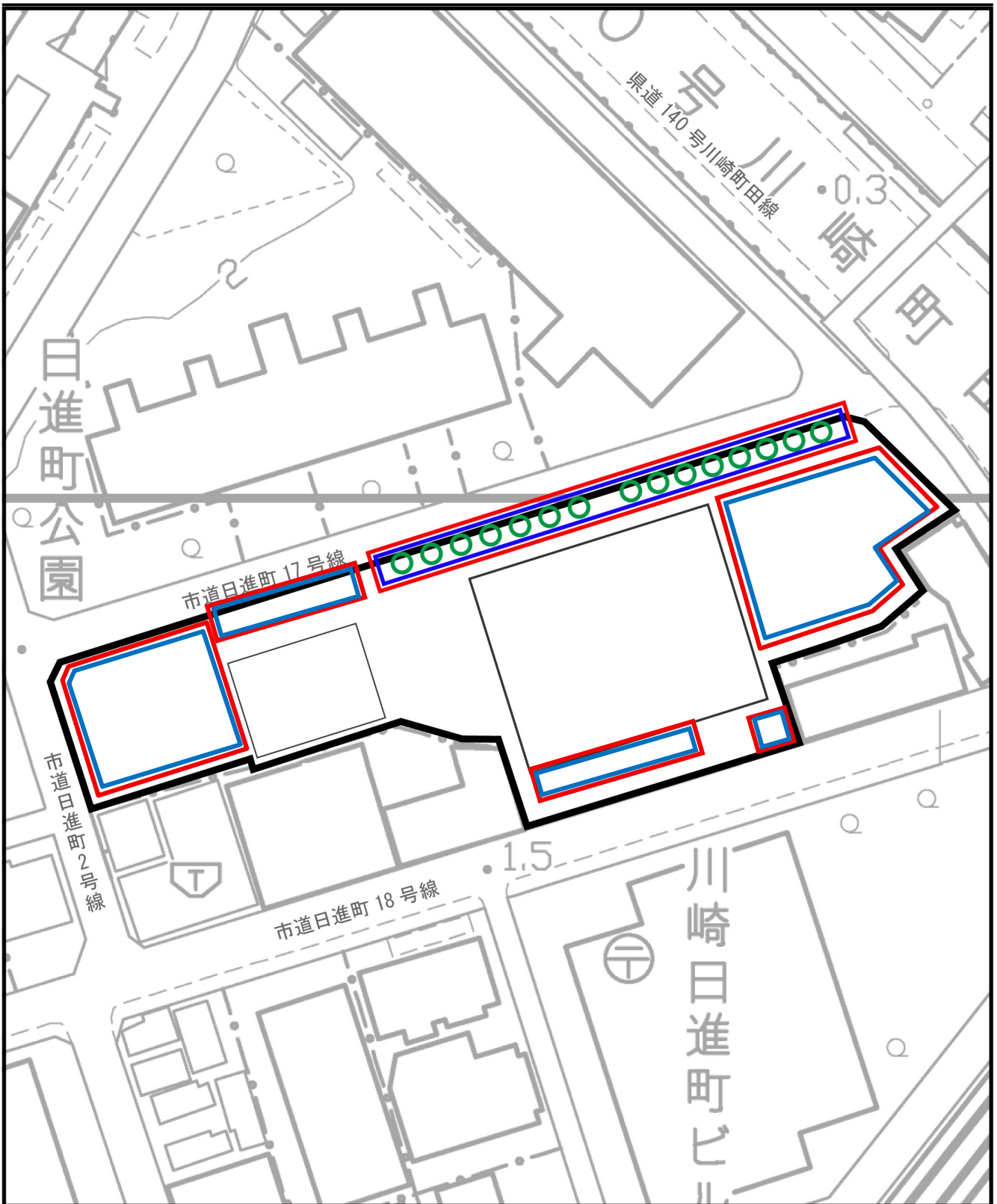
表 4.6.1-5 主要な植栽予定樹種の環境適合性予測結果

植栽予定樹種	川崎市緑化指針							現地踏査結果 計画地周辺の 公園で確認 された樹種	既存資料 潜在自然 植生の 構成種
	緑化 樹木	特性				適地	地域特性		
		耐風性	耐陰性	耐湿性	耐乾性	住宅地 の緑化	低地部		
大景木 常緑樹 タブノキ	○	○	○				○		○

注1) 表中の○印は、該当を示す。

2) 潜在自然植生の構成種は、計画地の潜在自然植生である「イノデータブ群集」で見られる種とした。

資料：「川崎市緑化指針」（令和4年2月一部改正 川崎市）
「川崎市および周辺の植生」（昭和56年 宮脇昭ほか）



凡 例

- 計画地
 大景木
- 耐陰性に留意する必要がある範囲
- 耐風性に留意する必要がある範囲



Scale 1:800



図 4.6.1-3

環境特性に留意する必要がある範囲

(イ) 植栽基盤の適否及び必要土壌量

計画地内の土壌は、人為的影響を強く受けた造成土であり、有機物の堆積により生成された秩序性のある自然的な層位は認められない。また、全層にわたり固結し、緻密な壁状であり、若干還元状態である。なお、地下水は認められなかった。

地表の碎石層以下の土壌の物理性については、砂質埴壤土（SCL）であるが、飽和透水係数が低く、有効水分保持量が少なかった。

化学性については、全窒素や有効態リン酸といった土壌養分が不足していた。また、コンクリート夾雑物を由来と考えられるアルカリ土壌が確認された。

以上の結果から、計画地内の土壌は植栽土壌としては良好ではなく、土壌の入れ替えが必要と予測する。

なお、本事業の緑化計画において、植栽基盤の整備に必要な土壌量は、表 4.6.1-6 に示すとおり約 48m³ と予測する。

表 4.6.1-6 植栽必要土壌量

区分	面積 (m ²) a	深さ※ (m) b	必要土壌量 (m ³) c (=a×b)
大景木の植栽基盤	約 48	1.0	約 48

注1) 深さ (※) は、下表を参考に設定した。

- ・植栽予定の樹木は 10m であるため、深さは樹高 7~12m で最も厚い深さである 100cm とした。

表 規格別有効土層の厚さ (参考値)

樹高※	12m 以上	7~12m	3~7m	3m 以下	芝生・草花
上層	60cm	60cm	40cm	30~40cm	20~30cm
下層	40~90cm	20~40cm	20~40cm	20~30cm	10cm 以上

※ 樹高は、生育目標の大きさ。

- 2) 有効土壌のイメージは、下図に示すとおりである。

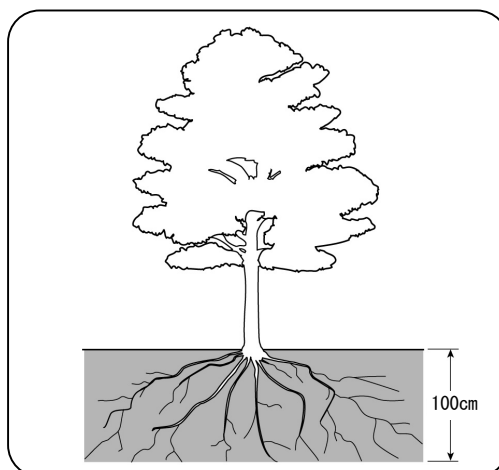


図 有効土壌のイメージ

資料：「植栽基盤整備技術マニュアル」（平成 25 年 12 月 改定第 2 版 一般財団法人日本緑化センター）

イ. 評価

本事業における主要な植栽予定樹種であるタブノキは、耐風性及び耐陰性の樹種であり、計画地の潜在自然植生の構成種に該当する。

また、本事業の緑化範囲は、計画建築物等による日影や強風の影響を受けると想定されるが、耐風性及び耐陰性を持つタブノキを植栽し、適切に管理を行うことにより、計画地の環境特性に適合するものと予測する。

計画地内の土壌は人為的攪乱を受けた造成土で、自然的な層位は認められず、全層が固結した緻密な状態で若干還元傾向を示していた。砕石層下は砂質埴壤土（SCL）であるが、透水性と保水性が低く、窒素やリンなどの養分も不足しており、コンクリート夾雑物由来と考えられるアルカリ性も確認された。

以上の結果から、計画地内の土壌は植栽土壌としては良好ではなく、約 48m³ の土壌の入れ替えが必要と予測する。

植栽基盤の整備に当たっては、必要な土壌量以上の良質な土壌を客土することにより、良好な植栽土壌を確保する等の環境保全のための措置を講じる。

以上のことから、緑の適切な回復育成が図られるものと評価する。